



ぶれいん

2004年2月

| | |
|-------|----------|
| 発行人 | 学術・図書委員会 |
| 発行責任者 | 大西 英之 |
| 編集責任者 | 吉野 孝広 |

大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

大西脳神経外科病院の基本方針

1. 生命と人権を尊重した医療を実践する。
2. 神経疾患の専門的・高度医療を実践する。
3. 常に新しい医学の学習に励む。
4. 救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

平成16年今年の抱負

■ 院長 大西 英之 ■
目標を持って飛躍しよう



皆さん、明けましておめでとうございます。

新年最初の日の朝に、集まって頂き年賀式をやっています。会う度に挨拶していたら大変なので、一度にすればいいという合理的な精神とお互いに顔を見て気持ちを新たにするという意味もありこうやって毎年行っているのですが、改めまして今年もまたよろしく願いいたします。

今年、4年目になります。石の上にも3年という言葉もありますように、一応3年経って、ある程度

の形は作られてきたと思うのですが、今年、いよいよ機能評価を受け、名実共に基礎固めができ、飛躍の年にしたいなという風に思うわけです。毎年、NHKの新春対談というのを見ているのですが、今年は、利根川進さんというノーベル医学賞を受けられた人と村上龍さんが対談していました。利根川さんが言っていたことは、人生において何を一番幸せに感じるかということです。これは私自身経験したことなのですが、私は学生時代医者になる勉強より山登りが好きで登山ばかりしていました。

学生時代6年間登山して、それから4年間ほど訓練して、登山といっても本格的なことをやりましたので、真冬に重いリュックサックを背負って山へ入っていくわけです。そのときの気持ちというのは、スポーツをしているという気持ちよりも、冬の寒い吹雪の中に突入していくわけですから、恐怖ですね、やっぱり怖いのです。それから体力的な問題などを感じながら登っていくわけです。そこには「なぜそのような行動を起こすのか」という人間の基本的な本能があるわけです。その時、私はヒマラヤ登山の



若き日の院長

ためのトレーニングと考
えていたのですが、何か目
標に向かってひとつの事
をやろうとしている時が
一番人間にとって幸せな
んじゃないかということ
を利根川さんが言われて
おり、私の経験と全く同じ

だなと感じたのです。実際に

私自身ヒマラヤという山を登頂することが運良くでき
ましたが、頂上に立った時に非常に悲しくなった
のです。普通なら、今まで登りたい登りたいと夢に
まで思い、ずっと苦しいトレーニングを積んできた
ことが、目の前に成就される、成し遂げることが
できたという時、本当はうれしいはずなのに、非常
に悲しくなったという妙な気分が襲われたことを今
でも覚えています。その時に何を思ったかといいま
すと、ああ、もう目標がなくなった、自分がやろう
としたことが無くなった、という気持ちに襲われた
のです。ですからここで言いたいことは、毎日、何
も考えずに生活しているのと、何か目標をもってや
っているという時には、そこに大きな違いが生まれ
ると言うことです。毎日毎日が充実して送れるとい
うのがハッピーではないかと思うのです。ですから皆
さん、何か目標を持ってやっていただきたいと思
うのです。ノーベル賞を受けた利根川さんもノー
ベル賞を受けた時は全然うれしくなかったと言われ
ていました。私もなるほどなと思いました。皆さん
こうして毎日業務についているわけですが、仕事
をする上において、人間何をハッピーに感じるか
ということ、もちろん給料はたくさんもらえる方
がいいわけで、毎日楽しくやっていけば良いので
すが、そこに何かひとつ目標を持っているとより
充実した仕事についての喜びというのを感じる
のではないか



と思うのです。

今年はそういうことで、皆さん、それぞれに大き
な目標を持ってして欲しいと思います。開院して1
年目は、とにかくスタートするといったことで始め
て、2年目は、ハードの面では新しいCTを買った
り、脳血流を計る機械を買ったり、3年目には、2
台目のMRIを買って工事をして検査科も上に移っ
てもらって、ハードの面はそれで充実しているか
と思いますので、今年は、我々が携わっている医
療業務の質の改善といいますか充実といいますか、
質をレベルアップしていく必要があるのではない
かと思います。例えば医事課であれば、外来の窓
口ですから患者様との対応をきちっとするとか、
レセプトの査定をされないようにするとか、未納
金がないように努力するとか、一杯あろうかと思
うのです。放射線科であれば、せっかく良い機
械が入ったのであの機械でもって最高の能力を
発揮するようにきれいな写真を撮るようにです
とか、3D-CTAとか、ゼノンで



世界最高速 GE infinity echo speed plus 8ch

もきれいな写真を撮るといような、いくらでも改
善するところはあると思います。これは各部署に
ついて言えることだと思いますので、各部署で
これからどういう風に内容を充実させるかを考
えていただいて今年一年取り組んでいただきた
いと思うわけです。一月中には各部署のヒア
リングをしたいと思っておりますので、直接
意見をお聞きし相談しながら今年の目標を
立てていきたいと考えています。

今年は4年目ですから、是非、飛躍の年、内
容を充実させるという意味での飛躍の年にし
たいと思います。

どうぞ皆さん頑張ってやっていきましょう。

■ 副院長 西川 方夫 ■
今年の抱負



①仕事に関すること

やはり、今年の4月に行われる日本医療機能評価機構の病院機能評価に一発合格することです。そのために出来る限りの努力をするつもりです。それに伴って当院の医療水準、医療環境をさらに良くするようにしていきたいものです。その他、今年は、できたら、久しぶりで何かペーパーを書いてみたいと思っています。

②プライベートな生活に関すること

健康な1年を送れるよう健康管理に留意しようと思います。また、小さな望みとしては40cm以上のチヌを釣り上げて、今釣果でせている家内との差を広げることと、ゴルフで1ラウンド80台を出すことです。



■ 事務部長 植田 惇彦 ■
オールフォーワン(All For One)

今年は温かいお正月で、2日・3日と連日で東大阪の花園ラグビー場に出かけた。2日は大学選手権で関西の同志社大と京産大を応援したが、両チームとも完敗で自分も一緒にたたきのめされた重い気持ちで帰った。3日は全国高校ラグビー大会で大阪代表の啓光と仰星を応援し両校ともそろって勝った。

お陰でスカッとしてルンルンの気分だった。

ラグビーにはワンフォーオール(One For All)とオールフォーワン(All For One)の言葉がある。一人一人のプレイヤーは全員の為に地道にプレイするし、全員は一人(得点者)のプレイヤーの為に地道にプレイする。ラグーマンは背の高い選手、太って重心の低い選手、背が低く小回りのきく選手、スピードとパワーを兼ね備えた選手等、各々の個性を発揮して最も適したポジションでプレイする。皆が自己の役割を全力で果たすが、お互いの連携をより重視してプレイする。しっかりとバインドしてスクラムで押す。捨て身のタックルで防御する。自分が犠牲になって相手を引きつけて、倒される寸前に丁寧にかつ正確に味方にボールをパスする。味方の誰か最後の一人(得点者)の為に全員がひたすらチームプレーに徹して地道にプレイする。病院に勤務して間もなく2年になるが、病院でのチームプレーも同じだと思う。病院には多くの医師・看護師・薬剤師・技師がおり、連携して患者さまの診療にあたる。又、医事・総務・守衛等がこれを下支えする。ワンフォーオール、オールフォーワンの精神はここでも生きている。但し、病院でのオールフォーワンのワンは患者さまである。



「一人一人は全員の為に」、「全員は患者さまの為に」今年の病院の最大の課題は「現在の医業水準をいかに維持するか!」である。具体的には4月には診療報酬の改定があり、これをいかに乗り切るかである。全職員一丸となって目標を集中して、全員が病院運営に参画して知恵と活力を結集する。まず4月の機能評価を乗り切って、これをバネにさらに大きく飛躍する年としたい。

■ 看護部長 金川 雅子 ■

新年度に向けて

3年目の昨年は、病院機能評価の予備審査を11月に受診し、まずまずの評価をいただきました。しかし、何とか体裁が整ったという段階で、浸透とかマニュアル通りの実践には、まだまだ至っていないのが実際です。また、いくら予備審査で良い評価を頂いても本審査が受からなければ何なりません。本



年4月の本審査には「落とせない」危機感を持って臨む必要があります。看護部では「生命の尊厳と患者様の人権を

守り、常に患者様の視点で看護を実践する」の理念のもと、各部署・委員会そして自己の目標にも繋がりがやすいことを最大のポイントとして平成16年度の目標を設定しました。

平成16年度の目標は「患者サービスの向上」一本です。患者様へのサービス向上を目指すには、患者さまより評価を頂かなければなりません。患者さまより好評価（満足）を頂くためには、看護師として



の専門的知識・技術の向上は無論、事故を起こさない安全で安心な医療・看護の提供が求められます。お任せいただける自分作りが求められます一方、接遇面での対応も厳しく問われます。今年度は、個々の成長を願って「患者サービスの向上」を目標に取り組みますと共に職員全員で4月の病院機能評価本審査合格を目指して頑張る参ります。今年も良き年となりますよう、よろしくお願いたします。

■ 薬剤部長 堀内 喜美恵 ■

2004年を迎え

新年おめでとうございます。2004年はどのような年になるのでしょうか？切に平和を祈ります。

医療業界は厳しい冬の時代と言われているが 当院は、全職員の努力と地域の方々に支えられて、無事3年が経過した。今年予



定されている診療報酬改定は、医師の技術料など報酬本体は据え置かれるが薬価と医療材料は1%引き下げられる事となり、薬剤部はますます厳しい状況が予想される。そのような中4月にはいよいよ医療機能評価の審査がある。機能評価を受けることは、毎日の業務を一から見直す良い機会となり、業務のグレードアップにつながった。審査に向けてさらに業務を充実させ、発展させていきたいと思っている。昨今問題となっている医療事故の大半は、薬に関する事故である。そこで 今年の薬剤部の目標には「薬に関する医療事故0を目指す。」を掲げ「医薬品の適正使用」の推進に努力していきたい。又、最近薬に関する情報も多く、患者様は副作用を恐れるあまり、ともすれば、処方された目的を忘れ、自己判断で中止し、症状の悪化を招くこともある。これも広義の医療事故と考えられる。薬を正しく知って、治療に積極的に参加して頂くために薬の説明をわかり易い言葉で話し、服薬指導にも力を入れていきたい。そして患者様の立場にたったより良い医療を心がけ、地域医療に貢献できる病院、薬剤部でありたいと願っている。



■ 医療技術部長 物部 健彦 ■

平成 16 年の目標

平成 15 年の念頭目標は「院内書式・マニュアル類その他一切の文書の Web 化」と「学会誌・商業誌等定期刊行物のデータベース化」でした。

昨年は医局 web としてホームページを立ち上げ、一部の文書の HTML 化を終えましたがおよそ 1/3～



1/2 程度しか整備できていません。今年はこれを充実させていきます。

また、学会誌のデータベースも立ち上げはしたものの内容が

まだまだです。また、昨年末に予定していた院内検査予約の PC 運用がまだできていません。今年は引き続き病院機能評価に向けての準備と、急性期専門病院としての役割を果たすため地域連携や救急隊との活動連携に力を入れていきたいと思えます。

■ 中嶋 千也 ■

2004 年の抱負

・神経内視鏡手術の導入と

実践

遊びはスノーボード・スキーの上達、およびゴルフ猛打賞(?)の返上



■ 安達直人 ■

2004 年の抱負



「皇国の興廃この一戦に有り・・・」ちょうど 100 年前に日本民族の誇りと自信を世界に知らしめた日露戦争が開戦されました。イラク派遣の小田原評定は、当時の人の目にどのように映るで

しょうか。病院にとっては 4 年目ですが、私にとってはまだまだ初年です。100 年前の小国が大国に毅然と立ち向かうがごとく気概をもって神経疾患治療のさらなる充実と邁進がかなう年になるように精進して参りたいと存じます。

■ 参与 岡田 惇也 ■

抱負

ここ何年か「抱負」を抱くことなく惰性で暮らしてきたが、今まで「天体望遠鏡を作るぞ」、「今年は絶対大学合格」、「結婚する!」、「学位をとる」、「今年こそ早期退職するぞ」と人生の節目にそれなりの



抱負を抱いてきたものだ。久しぶりに(重要じゃないけど)抱負を抱いてみよう。入職 1 年余、院長には「結果報告がな

い」、「(購入品の) 値段が書いてない」等々よく怒られた。1 番目は「院長に怒られる回数を半減しよう!」だ。そう言えば目標管理も未達だな。2 番目は「経理のことを少しは勉強しよう」。土曜日もやや休み易くなってきた。以前やっていたボランティアを再開しようか。4 番目は「今年のGWはすごい。2 日休んだら 9 連休! どこか海外旅行しよう。」これは抱負じゃなく願望かな? 「ぶれいん」に書いて既成事実化してしまえば院長の了解をとるのが楽かもね。

◆ 医事課課長代理 川中 雅彦 ◆

医事課として

昨年の 6 月から配属になり早半年が過ぎました。ただ日々の業務をこなすのが精一杯の日々のような気がしません。今年は、医事課として次の事柄に気をつけたいと思います。



- ① 医事課は病院の顔であることを医事課全員が自覚し、笑顔を忘れないよう心掛ける。
- ② 患者様から気軽に質問など話し掛けて頂けるような雰囲気を作る。

とはいっても、まず自分からできるように努力して、最初と最後が医事課に関わるので「大西脳神経外科に来て良かった」と思われるよう頑張ります。お気軽に、些細なことでも結構です、話してみてください。受付の後ろで、難しい顔をしています、結構愉快な奴です。本年もよろしくお願ひします。

■ 外来 手術室看護師長 木村ひとみ ■

今年の抱負

平成16年は開院4年目、3年間で基礎が出来上がり、今年は、より充実させる年であります。平成16年の抱負は、何



と言っても病院機能評価に向けて、スタッフ全員で取り組み合格することだと思えます。昨年は、各委員会を中心にマニュアルを製作しました。しかし、スタッフに十分浸透していないのが現状です。本審査までに浸透させ、看護の質を高めることが課題です。外来には、1日平均160人の患者様が来院されます。お一人お一人に満足して頂けるよう患者様の視点に立った看護を提供をしたいと思えます。そのためには、患者様に声をかけ何を必要としているのかを見極め対応することが大切です。患者様の期待に応えられる看護を目指します、

外来での、今年の目標は、

1. 専門知識・技術の向上

- ① 機能評価に向けて全員で取り組む。
- ② 外来看護記録を見直し継続看護を充実させる。
- ③ 教育計画を見直し充実させる。

2. 医療事故防止

- ① ME 機器点検の定着
- ② ハットメモ・事故発生時速やかに対応し、全員で問題意識を持つ。

3. 患者サービス向上

- ① 接遇面に配慮する。
- ② 親切丁寧に対応し気持ち良く診察を受けて頂く。
- ③ 検査案内をわかりやすく説明する。
- ④ 待ち時間を考慮し、長くなる場合言葉かけをする。
- ⑤ 検査終了後の診察時間を考慮する。

以上の目標に向けて1年間頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



◆ 手術室 主任 石井 義秀 ◆

今年の抱負

年々手術件数が増加しています。そのため忙しい業務に追われ、1日1日の業務を振り返ることが少なくなっています。しかし平成16年は、病院機能評価受診という大きな仕事があります。これを期に業務内容の1つ1つを検討しスタッフ全員が統一した手順で業務を遂行できるような各種マニュアルの作成と見直しを行いよりスムーズで安全な手術を患者様に提供する必要があります。また主任看護師は実践者としての模範を示す実践管理者であるという



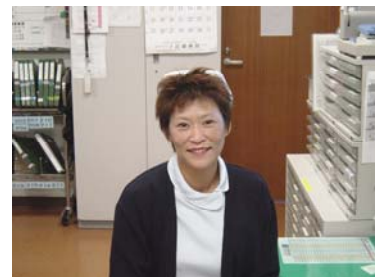
ことを自覚しながら、スタッフを指導教育すると共に、日々の業務においても、振り返りを重ねることで業務改善に努力して生きたいと思えます。そして周手術期看護の実践を図るため、術前訪問を継続し術前訪問が活かされた患者様個々の術中、術後評価に繋げて行きたいと思っています。

ことを自覚しながら、スタッフを指導教育すると共に、日々の業務においても、振り返りを重ねることで業務改善に努力して

■ 2階病棟 師長 布野 恵美子 ■

今年の抱負

明けましておめでとうございます。4年目を迎えた今年は、やりたいことがいっぱいワクワク、ドキドキ胸が高鳴っています。昨年7月に配置換えで2年3ヶ月ぶりに病棟勤務となり試行錯誤の半年でしたが、患者様の回復を目の当たりにすると外来とは違ったやりがいを感じます。しかし、スタッフは忙しい業務に追われ、そう感じる余裕がなくとても残念でした。



今年は病院機能評価を受審する年です、再度業務の見直しや統一を図り、質の向上が不可欠です。固定チームナースングや看護記録の充実をはじめ、看護師一人一人が患者様や家族の思いを尊重し、家族が安心して受け入れられるような体制をとって行きたいと思えます。そしてその関わりがスタッフのやりがいに繋がるよう努めて行きたいと考えます。

■ 2階病棟 主任 近藤 明子 ■

今年の目標

明けましておめでとうございます。新しい年が皆さんにとって良い一年になることを願っています。さて、昨年は病棟業務の見直しや、各病棟の連携につ



いて主任会で検討を重ねました。こうした振り返りと、職場のスタッフの協力によって、安全で働きやすい職場が作られていくのを感じました。今年は機能評価も控えており、当院においては重要なターニングポイントの年になると思います。これを良い機会にして看護の基本となる部分からもう一度見直して行きたいと考えています。

そして、個人的には〈介護の指導マニュアル〉を作成することを通して、介護指導の充実を図りたいと考えています。なぜなら看護師は患者様に対してだけでなく、その人を支えるご家族の方々をも看護していくことが非常に重要であると考えからです。このマニュアルを作成し活用することによって、ご家族の新たな生活を構築する方法が明確になればと思っています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

■ 2階病棟 主任 米田 芳子 ■

開院4年目を迎え

当院は開院4年目を迎え、私は主任となり1年が過ぎました。まだまだ、主任としての責任の重さや、知識のなさの中、手探りの状態での業務ですが、そんな中でも自分自身について日々振り返ること、またスタッフとのコミュニケーションなどにより学んだこともたくさんありました。そして2年目となる



今年、患者様に対する思いやりの心を忘れず、その中で看護理論に基づくスタッフ全員での一貫した看護を提供して行きたいと考えています。私も含めてスタッフの年齢層は若く、経験不足から活発的な意見が出てきにくい面もありますが、反面これからの個々の頑張りにより、進歩も期待できると思っています。個々の感性を大切に、ただ業務に流されているのではなく、今何が必要か、何をすればより患者様の為になるのかを日々考えながら、目標に向かってスタッフ一同頑張っていきたいと思っています。今年も一年よろしくお願い致します。



救急隊による救急講習会

■ 3階病棟 師長 上原 かおる ■

今年の抱負

開院3年を経過し、病院の礎を築けた今年は発展の年であると考えています。看護部においても現任教育として、3年間脳神経外科疾患・看護の専門知識の習得に焦点をあてて実施してきました。少しずつではありますが成果は出てきたと思っています。今年ステップアップし、病院機能評価の受審を機会にクリニカルラダーの導入による能力開発を考えています。



導入により看護の質の向上を図ることができ、また看護職員一人一人の遣り甲斐にも繋がり満足感を得られていることを期待しています。それがひいては患者サービスの向上にもつながると考えています。今後も脳神経外科看護のスペシャリストの育成に向け、邁進して行きたいと思っています。

■ 3階病棟 主任 川村佐智 ■

今年の抱負

3階病棟に配属になり、早2年以上が経とうとしています。配属当初は、日々の業務やスタッフに慣れるように無我夢中で勤務してまいりました。やっと三年目という私なりの節目を迎え、自分を振り返る事ができるようになりました。また、そうすることで、周りを見る事ができるようになり、自分の中で、やっと少し余裕が出てきたように思います。今、医療の中では、より良い看護の質が欲求され、院内で



は、病院機能評価の受審に向けての準備が本格化し、その整備に追われる日々を送っています。看護の能力が問われる今、ケアプロセスの明確化では看護部一丸となって取り組んでいます。自分の役割を十分に認識し、少しでも役立つように頑張っていきたいと思っています。



先程、三年目の節目と言いましたが看護師になって、15年という節目でもあります。「初心忘るべからず」ではないですが、これを期にさらに、自分自身を振り返り、看護の場面だけではなく社

会に貢献できるように日々努力していきたいと考えています。個人的な面では、もうおばさん??という年齢ですが、心も身体もさらに磨きをかけて良い笑顔でこの年も過ごせるように努力したいと思っています。また、兵庫に来てやっと慣れてはきましたが、まだまだ私の知らない良い所があると思うので、いろいろと御指導(?!)よろしく御願い致します。

■ 3階病棟 主任 山尾 綾子 ■

今年の目標

昨年4月に入職し思った事は、「非常に忙しい病院だな」という事です。脳神経外科の経験はありましたが、これほどまでに忙しい病院は初めてです。毎日恐ろしいほどの入院患者があり、患者を把握することが精一杯でした。これが急性期病院の大変さと痛感しました。あっという間に日々が過ぎ、もう新しい年を迎えます。7月に主任という辞令を受け責任の重さを感じると同時に、病院全体が専門性を深めるために、日々努力を重ね頑張っている姿を見ているうちに私にも今まで自分が経験した専門的知識・技術・看護が生かせたらと思いました。医療が高度になる中、看護領域も視野を広げ、活動を続けています。これは、看護師の向上心、探究心があってのことだと思います。これらを忘れず脳外科の特徴をいかした、患者の求める看護を提供して行きたいと思っています。

ちょっと一息

“申年生まれの方は・・・”

申年生まれの方は、快活好奇心が強く、人生への取り組み方も積極的です。他人に指図されることを嫌う一方で、相手の気持ちを読み取る能力に優れているので出世も早く、友人にも恵まれるでしょう。欠点としてはどんな環境や立場にあっても自分勝手になりがち傾向が上げられます。移り気な面が激しいので、物事を最後まで成し遂げる能力に欠けます。そのため、訪れるチャンスをすばやくつかむことはできても、それを確固たるものとして自分のモノにできないことも十分考えられます。今年は根気強く何か1つのことにトライしてみたいですか。



❁ 栄養管理室 主任 森川 香 ❁

平成 16 年今年の抱負

「ついに」というか「とうとう」というか、開院して丸三年が過ぎてしまった。開院準備から立ち上げ、軌道にのせるまで・・・と脇目も振らず前



進してきた（つもり）。途中で「投げ出してしまいたい・・・」と思うこともあったが、とにかく石の上にも三年と思い頑張ってきた。現在も春に機能評価の受審を控えており当面はそれをクリアすることが目標である。そのために選択メニューを導入する予定である。さて、そこではたと立ち止まった。その後はどうしよう・・・？年賀会で院長の話を聞きながら考えた。とりあえず体裁は整った。あとは病院のオリジナリティを出すことだ。やりたいことは山ほどある。NST（栄養サポートチーム）を立ち上げたい、地域に発信できるような集団栄養指導をしたい、もっといい食材・食器を使って美味しい食事を提供したい。（私が出産した産婦人科の食事は素晴らしかった！病院給食のイメージが変わったほど）「目標は高いほどいい」（とは院長の弁）。ただ、欲張りすぎて方向性が見えてこないことが最大の問題。今の人員・設備でどこまでできるか？を整理することが今年の目標かなと思う。千里の道も一歩から。当面一人だと思うのでぼちぼちやります・・・

■ 言語聴覚療法室主任 寺田 博子 ■

平成 16 年に向けて

12 月から言語室に勤務することになりました寺田博子です。言語室は 2 階の病棟近くにあります。窓から陽光がいっぱいにふりそそぎ、とても明るい場所です。さて、当院は急性期の病院であるため患者様の在院日数が短く、当然言語室でのお付き合いもあまり長いものではありません。失語を始めとして構音障害、嚥下障害、その他の高次脳機能障害と様々な病態の初期評価を行iriハビリテー



ションを実行していきます。限られた時間の中での評価はいつも難しさを感じてしまいます。そんな中で気がついたのは見極めの大切さでしょうか。患者様の言語症状や重傷度は勿論のこと、年齢や職業、家庭環境等を考慮しながら患者様にとってよりよい方向性を見極めるということです「言うは易し、行なうは・・・」の類のことではありますが、それを心に留めて仕事をしていきたいと考えております。皆様どうぞよろしくご指導下さい。

■ 臨床検査室 主任 丸山 裕子 ■

今年の目標

あっという間に 3 年が経ち、日々業務に取り組む中少しずつですが検査室の土台も築けて参りました。

患者様の数も多く、人々の関心が多く向けられていることを実感しております。患者様や検査件数が増



加する中、つい残業をこなすのに精一杯になりがちですが、検査かといたしまして、技術・専門知識の向上はもとより各個人の更なるステップアップを目指し今年には日々学ぶという姿勢で取り組んでまいります。そして、成長したいとの意欲をもって新しい分野にも挑戦して行きたいと思っております。今年はいよいよ病院機能評価取得に向けて、検査科としても大切な一年ですので、飛躍の年にして参ります。

✦ 医療連携室・医療相談室 上原 良江 ✦

平成 16 年の抱負

- 1 患者様・ご家族に受容と共感の心で対応し適切な情報提供・援助を行って信頼を得る。
- 2 病院外の医療機関・在宅支援センター専門職種との連携・協力・コミュニケーションを深めチームワーク形成をはかり情報を確保する。
- 3 利用者の主体性や自立を尊重した専門的な支援を効率的に実施し早期社会復帰へ導く私的には健康に留意する。ストレスをためない工夫をして楽しく業務をする。



放射線科 主任 位部 清一郎

今年の抱負



早いもので3年が過ぎ4年目に突入しています。振り返ってみると当初スタッフは3人で、今5人機械は、脳血

流装置（XE-CT）画像処理装置（CT-アギホ、CT-Pなど）、1, 5 TMRIが導入され、急がしさは昔から変わっていないような気がします。ただ変わったのは、5人中3人が30代になったことでしょうか。当初入って仕事を始めた時、どうゆう気持ちだったか思い出してみると、本当にうまくいくのか？ みんなと仲良く仕事ができるのか？ 患者さんがやって来るのか？ 満足できる検査を提供

できるのか？色々考えたものです。今は患者様にも評判が良く、病院としてもとても充実しているのでは、ないでしょうか？



（少し急しいですが）まだまだ満足出来るところまで、きていないと思いますが？今年、さすが大西脳神経外科病院の放射線科だといわれるように、スタッフ一同がんばっていきましょうと思います。

理学療法室 技師長 吉野孝広

今年も頑張ります。

去年は遊びと仕事、共に色々な事に手を広げてきた。広げ過ぎて薄くなり、髪の毛も薄くなり今にも穴が開きそうな状態であった。遊んでいるとき「時間が無い」と思う、仕事をしているときも「時間が無い」と思う。前者は

楽しくて時間が無い、後者はギリギリまで溜めてしまうので時間が無い、同じ様でまったく違



う。いつも判ってはいる、判っちゃいるけどなんとやら……。しかし今年も懲りずにさらに手を広げていこうと思う、広げながらも平行作業、同時進行ができるよう時間配分を考え動く、遊びたいならなおさらである。切羽詰ってからでは十分な力が出せないし良い仕事もできない、しかも無理をすれば毛根への悪影響も十分考えられる。まあいろいろありますが兎に角「暇なの？」とか言われるほど見た目は楽そうしかし、かなりの仕事をこなしている、なのに出来映えはかなり良い、みたいな“やれる理学療法士”をめざし今年も頑張ります。

スタッフともどもよろしくお願ひします。

編集後記

ようやくお正月気分も抜けたと思いきや！鳥も、人も“インフルエンザ”に悩まされている今日この頃、吉野家（我が家のことではない）は牛丼屋なのに牛丼が出せず、政治家は自分の学歴さえ分からないほど判断力をなくし、親は自分の子供さえも手にかけてしまう。

ニュースで見る世の中は自分の周囲からは想像もつかないほど目まぐるしく動いている……。

と、カッコよくは言ったものの、やはりできる事は、「患者さまへのよりよい医療の提供」と言うことで、今年も「ぶれいん」をよろしくお願ひします。

（吉野）

